

【ねがいましては】

第48号

平成4年9月25日
共和珠算塾 新浜

「人のために働くこと」

テレビ番組で「知ってるつもり」というのがあります。色々な分野で活躍された方々を紹介する番組なのですが、そのどなたもが共通して持っているものは、「人のために生きてるねー」というようなことのように思えます。ほとんどの方がその姿を見るにつけ「感動」を覚えるのではないのでしょうか。私も幼少の頃、偉人伝などを読み「感動」しました。子どもだからこそ「夢」と一緒になって「「よーし、なったるでー」的なファイトがあったように思えます。プラス、それなりに貧しかったことも手伝っているのかもしれない。

日本放送出版協会刊「日本の小学生・日本の中学生」より、次のように述べています。

一日本の子どもは他の五か国（アメリカ・イギリス・イラン・フィリピン・シンガポール）と比較すると、はっきりとしたエゴを持っている。まず、データの順にいうと、家の手伝いはしない。それから電車やバスでは席を譲らない。校庭や廊下のゴミは拾わない。しかも、この数値は諸外国の子どもと大差がある。ちゃっかり自分の部屋を持っていて、他人のためにはほとんど何もしない。それが今の日本の子どもの姿である。

（中略）ある学校のできごとである。下駄箱がひっくり返って、靴がその辺に散乱していた。たまたまそこを通りかかった生徒たち数人がそれを片付けようとしたが、生徒のうちのひとりが「そんなことしたって何のトクにもならないじゃないか」と発言した。結局片付けるのをやめてしまった。ちょうどそこへひとりの先生が通りかかった。すると生徒のひとりがこう言ったのである。「先生、これを片付けたら内申をよく書いてくれるか」

恐るべき子どもたちである。中学生くらいになると、クラブを選ぶとき、どのクラブに入ったら点数がよくなるかと質問するという。点数の善し悪しによってクラブを選ぶという価値観であって、自分が好きだからとか、体を鍛えるのに役立つという価値基準が働いていない。要はソンとトクの価値基準が子どもたちを支配しているのである。ー

これでいいのかなー、と悩んでしまうのは私だけではないはずだ。「こつこつ、こつこつ」と伝えなければと思います。

今年の夏、私は一部の中学生にアルバイトをさせました。ご父母の深いご理解をいただいたおかげです。内容は「再生資源の回収業務」、かっこいい言い方ですが、いわゆる新聞の回収なのですが、体力と根気の仕事です。一日に私などは350mlの飲み物を8～9本飲んでしまいます。終わったあとには働いたという充実感と疲れが残ります。そして彼らには少しのおこづかいを渡します。「人のために働いたんだよ」ということが彼らには通じたかどうか。

でも漢字ってすごいもので「人のために働く」が「「のために」を除くと「働く」になるんですね。これからも「働く」ということを知ってもらって「よーっしや勉強もこのエネルギーでやったるでー」って勉学に対するエネルギーも同時に培ってくれたらと思っています。

☆10月の予定

- 6日（火） 検定試験合格発表
- 10日（土） 体育の日でお休み
- 18日（日） 第12回そろばんまつり・中央商業高校（東京都中央区新川）
 - *集合時間 午前8時～行徳駅集合（改札前のガード下）
 - *持ち物 おべんとう・のみもの・筆記用具・そろばん
 - 入れ物は自由です

- 当日欠席になる人は、早めにお知らせください。 97-2433
- 交通費は徴収済みですので必要ありません。
- 帰りは西浜公園へ4時頃の予定です。
- ご父母の同伴もけっこうです。一緒に楽しめる内容です。